

麻疹（はしか）ワクチンについて

平成19年春の関東地区の大学生を中心に麻疹が流行した関係で、麻疹ワクチンが入手困難に陥っていました。当院でも、5/26に希望者に対する任意接種のためのワクチンは在庫がとうとう底をつきました。メーカー・薬卸の説明では、お値打ちな麻疹単独ワクチンは入手不可能、高価なMR（麻疹・風疹混合）ワクチンも需要急増のため、支店割当制となり、当院でも数本/週になっていましたが、ようやく現在は麻疹単独ワクチンもMRワクチンも通常通り入荷可能になっています。

当院では、大学生・成人には麻疹抗体価（EIA/IgG 自費4,200円）を測定してからの接種（概略は、2頁目のシェーマ図（朝日新聞6/5）を参照）を勧めています。費用の面から抗体価を測定せずに2回目を接種することも可能です。なお、妊娠の可能性のある女性の場合は、妊娠していない時期（月経～排卵日前）での接種が原則で、接種後は2ヶ月間の避妊が必要です。

母子手帳で麻疹・MMR・MRワクチンの接種歴などを確認しますので、子供さんの場合は、母子手帳の持参されなかった場合は接種できません。既に1回は接種済みの方で2回目の任意接種希望の児童や成人の方も、患者さんと良くお話し合いの上で希望に応じて接種しています。なお、8月2日の新聞報道（3頁目）によると、厚労省は平成20年度から5年間、13歳（中一）と18歳（高3）に公費負担でMRワクチン接種予定とのことです。この救済措置を待って接種するか、安心のために早めに自費で接種するかは患者さんの選択となりますが、なるべく接種されることをお勧めします。

麻疹単独ワクチン（当院では6,000円＋消費税）は今までは入手困難でしたが、10月18日以降供給可能となりました。なお、女児の場合は、先天性風疹症候群の予防ためできるだけ高価になりますが、MRワクチン（10,000円＋消費税）をお勧めします。

なお、予防接種法による定期接種（1歳児、小学校入学前の1年間）も、従来通り接種しています。1歳児・年長組児の方でまだMRワクチン接種をされていない方は、名古屋地区でも麻疹は散発的に発生していますので、なるべく早め（1歳のお誕生日祝いに、幼稚園の年長組に）に、MRワクチンを接種（名古屋市に住民票があれば無料）して下さい。

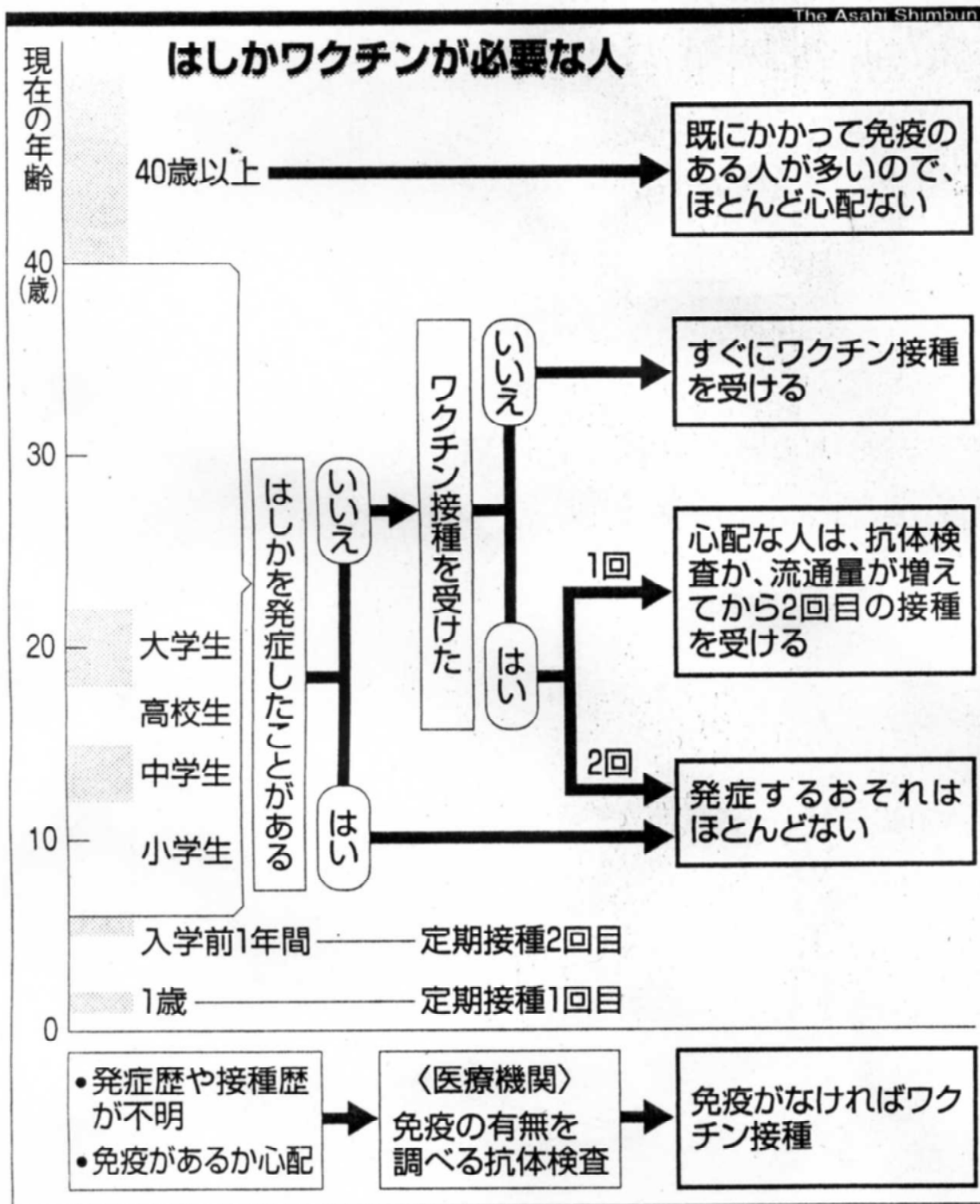
当院でのワクチン接種は、音声応答による自動予約システム（186-052-777-2826代）で日時・ワクチン種類を選択して2日前から予約出来ます。詳しくは予約方法のパンフレットもしくはインターネットHPを参照して下さい。

なお、当日は母子健康手帳を必ず持参の上、ご来院下さい。大学生、成人の場合は本人だけのご来院でOKですが、18歳未満の小・中・高校生の場合には、保護者の同伴が必要です。

平成19年5月26日

（6/5、6/14、7/15、8/3、10/17 一部改訂）

（医）若葉台クリニック



はしか対策

13歳、18歳にワクチン

厚労省 決定 5年で流行ゼロに

十一・二十代ではしか流行を受け、厚生労働省の検討会(座長・加藤達夫国立成育医療センター総長)は一日、はしかへの免疫がないか免疫が低下した若い世代への対策として、来年度から予防接種法に基づくワクチンの追加接種を、十三歳と十八歳に行うことを決めた。

二〇二二年度まで五年間の時限措置として実施。年間約二百四十万人が対象で、接種費用は基本的に公費負担となる。

同年までに国内の流行をゼロにすることを目標とし、そのために患者を全数把握するなどの対策も併せて決定した。

はしかの予防にはワクチンの二回接種が有効とされ、昨年から予防接種法に基づき小学校入学までに二回の接種を終えることになった。ところが今年、接種が一回だけ

た十一・二十代を中心にはしかが流行し、大学や高校で休校が相次いだ。今回の措置は、中高生にワクチンを集中的に追加接種し免疫力を高めるのが狙い。計画通り進めば五年後には、学校などで集団感染する恐れがある二十二歳以下は免疫がつくことになる。接種には風疹(ふうしん)との混合ワクチンを使用し、

風疹対策も同時に実施する。検討会はこのほか、これまで全国約三千五百の定点医療機関からにとどまっていたはしか患者数の報告を、来年からはすべての医療機関に全患者数を報告させるように改めることや、感染症の専門家や都道府県、ワクチンメーカー関係者などで構成する「麻疹(ましん)対策委員会(仮称)」を設置し、実施状況を評価することでも合意した。



はしか 正式名称は麻疹(ましん)。原因となる麻疹ウイルスは感染力が強く、くしゃみやせきで広がって、免疫のない人が感染するとほぼ一

〇〇%発病する。10日前後の潜伏期間の後、発熱やせきなど風邪のような症状を経て全身に発疹(ほっしん)が出る。合併症としては、肺炎や中耳炎のほか、まれに脳炎

が起ることがあり、死亡につながる例も。合併症がなければ7-10日で回復する。特效薬はなく、2回のワクチン接種による予防が有効とされる。

が起ることがあり、死亡につながる例も。合併症がなければ7-10日で回復する。特效薬はなく、2回のワクチン接種による予防が有効とされる。

が起ることがあり、死亡につながる例も。合併症がなければ7-10日で回復する。特效薬はなく、2回のワクチン接種による予防が有効とされる。

MR・麻疹ワクチン在庫あり

全国的な麻疹の流行により、**ワクチンが枯渇**していましたが、**MR（麻疹・風疹）ワクチン、麻疹単独ワクチンとも入荷**し始めました。

このため希望によるMRワクチン（自費：1万円＋消費税）、麻疹単独ワクチン（自費：6,000円＋消費税）接種は可能です。**流行時には入手困難になりやすい**ため、在庫のある時期に接種されることをお勧めします。

- ①定期MRワクチン時期を逸脱している**未接種の乳幼児**（9ヶ月～1歳未満、2歳以上～小学校入学2年前（年中組））
- ②**1回接種のみの方**、もしくは**未接種の方**（小学校～大学生、成人）
（**女兒はMRワクチン**を勧めます）
（**妊婦は除く、接種後2ヶ月は避妊**）

（注）

新聞報道によると、平成20年4月より5年間の時限立法で、13歳と18歳にMRワクチンを接種（一部有料または無料は未定）となります。従来からの定期接種（1歳児、年長組）と上記の時限立法の13歳・18歳以外の年齢での接種は自費接種になります。**欧米ではMMR（麻疹・風疹・おたふく）ワクチンの2～3回接種が常識**ですので、自費で1回余分に接種することは意味があります。

（医）若葉台クリニック